『詞』とは　楽曲の歌詞で、管弦などの音曲に合わせて歌われた。従って、題名の初めに曲調を示す「詞牌」が付けられる。形式としては、一段の単調、二段に分かれる双調、三・四段のものが有り、五言・七言、絶句・律詩という「詩」の形式に拠らず句語と句数はまちまちだが、押韻は、終始一韻のものと換韻するものとがあるのは「詩」とかよう。「詩余」ともいう。

晩唐の詩人によって手がけられ、五代に完成され、宋で新たな発展をとげた。東坡以前の作は「婉約派」と呼ばれ、主として艶情、客愁などがテーマとなっていたが、東坡は詩の領域である懐古、憂世、送別の情をおおらかに詠じ、さらに自身の人生観をも盛りこんだ新しい「詞」の境地を拓いた。東坡の「詞」は「豪放派」と称され、宋代詩壇を特色づける文学形式となった。

「念奴嬌」は「詞牌」（詞の曲牌の名）。双調、前段九句、後段十句。共に四仄韻、この作は入声韻。内容を表す題として、詞牌の下に「赤壁懐古」と添えられており、「赤壁の賦」と同時期に作られたとされる。

念奴嬌　赤壁懐古

念奴嬌（ねんやどきょう）　赤壁を懐古して　　元豊五年（一〇八二）年七月

大江東去
浪淘盡　千古風流人物、
故壘西邊
人道是　三國周郎赤壁、
亂石崩空
驚濤裂岸
捲起千堆雪、
江山如畫
一時多少豪傑、
遙想公瑾當年
小喬初嫁了
雄姿英發、
羽扇綸巾
談笑間　强虜灰飛煙滅、
故國神遊
多情應笑我
早生華髪、
人間如夢
一樽還酹江月、

（中国名詩選　川合康三　三三二頁記載）「『詞』とは：近藤光男・川合康三より抄出」

大江東に去り
浪は淘い尽す（あら）　千古の風流人物
故塁の西辺
人は道う（い）是れ三国　周郎の赤壁なりと
乱石は雲を崩し（くず）
驚濤（きょうとう）は岸を裂き
捲き起こす千堆（せんたい）の雪
江山は画（え）の如し
一時　多少（いくばく）の豪傑ぞ
遥かに想う　公瑾（こうきん）の当年
小喬（しょうきょう）　初めて嫁ぎ了（お）われり
雄姿は英発す
羽扇（うせん）と綸巾（かんきん）と
談笑の間（かん）に　强虜（きょうりょ）は灰と飛び煙と滅す
故国に神（しん）は遊ぶ
多情（まさ）　応に笑うべし　我の
早（つと）に華髪（かはつ）を生ぜしを
人間（じんかん）は夢の如し
一尊（ま）　還た江月に酹（そそ）がん

四仄・入声韻
物　五物
壁　十二錫
雪　九屑
傑　九屑
発　六月
滅　九屑
髪　六月
月　六月